

国家間暴力、民族間暴力から家庭内暴力、恋人間暴力まで、すべての暴力の背後には共通した何かがある。

それは複雑で、不透明で一筋縄ではいかないが、しかし根底にあるのは政治にも通底するはっきりした何かである。

その何かがどこからくるのかを究明する。

— 山形 —



絵 清真人

暴力の背後には 何かがあるのだろうか

【山形孝夫さん 紹介】

1932年、仙台に生まれる。東北大学卒業、同大学院博士課程修了。専攻は宗教人類学。元宮城学院女子大学学長。みやぎ憲法九条の会代表。

『聖書を読み解く』(PHP 研究所)『レバノンの白い山』(未来社)『聖書物語』(岩波書店)『聖書の起源』(筑摩書房)『砂漠の修道院』(平凡社)『死者と生者のラスト・サパー』(朝日新聞社)、近著に『聖母マリア崇拜の謎—「見えない宗教」の人類学』など多数。

と き： 5月22日(土) 午後2時30分～

ところ： 太白区中央市民センター 大会議室
(楽楽ホールに併設、地下鉄 長町駅下車)

講 師： 山形孝夫さん
(宗教学者 元宮城学院女子大学学長)

参加費500円